

本の街で

当事者以外にはなかなか伝わらない障害や病気を抱えての暮らし。その日常を、イラストやコミックを通じて発信する人々があります。

こころの目線を合わせる

私の生きづらさ、コミックで届け



神保町ブックセンターでは、コミック作品を通して、障害や病気とともに生きる日常を知ってほしい、と活動するイラストレーターさん・マンガ家さんをお招きし、障害・病気に対するリアルな知識を得て、みなさんと“こころの目線”を合わせる連続トークイベントを開催します。

イベント情報

- 開場：神保町ブックセンター
19:00~21:00 (18:30 開場)
- 各回先着 50 名様
- チケット代金：1500 円 (ワンドリンク付き)

お申込みはこちらから



- *店頭または
お電話 (03-6268-9064)
FAX (03-3294-3509) でも承ります。
- *お電話でお申込みの際は、開催日時とイベント名をスタッフにお伝えの上ください。

- ★座席の約半数がスツール(簡易の丸椅子)です。長時間スツールでの着席が困難なお客様は背もたれのある席をお取りしますのでPeatixのメッセージ機能もしくはお電話にてお知らせください。
- ★手話通訳が必要な人は、1週間前までにご連絡ください。

- 【注意事項】
- ・不参加による払い戻しはいたしかねます。
 - ・イベントの録音・動画撮影はお断りいたします。



8月23日(金)
第1回：〈解離性障害〉
Tokinさん × 山田ルイ53世さん
(イラストレーター) (お笑いコンビ・髭男爵のツッコミ担当)



9月13日(金)
第2回：〈双極性障害〉
まいさん × 中川洋さん
(イラストレーター・マンガ家) (株式会社リヴァ・復職支援コーディネーター)



10月11日(金)
第3回：〈適応障害〉
乃樹愛さん × 鈴木由香さん
(マンガ家) (心理士)



11月8日(金)
第4回：〈場面緘黙〉
モリナガアメさん × 高木潤野さん
(マンガ家) (長野大学社会福祉学部准教授)



12月13日(金)
第5回：〈統合失調症〉
ともよさん × 松本ハウスさん
(イラストレーター・マンガ家) (お笑いコンビ)

Profile



9月13日(金)

●まい

1988年生まれ。2016年、3年目の職場で違和感を覚えはじめ、29歳の時に双極II型障害と診断。2回の休職を経て、会社を退職。休職期間中に、日々の記録をマンガに描きはじめ、SNSにアップする。現在は寛解し、仕事をしながらマンガを描いている。



●中川洋(ナカガワ ヒロシ)

精神保健福祉士、産業カウンセラー。

上京後新卒で入社した渋谷のベンチャー企業で営業を経験するも、仕事で心身を疲弊していく自身や同僚に疑問を感じ、「働く人のメンタルヘルス」に興味を持つ。退職して産業カウンセラーの資格を取得後、うつ病等の方への社会復帰支援を行う株式会社リヴァに入社(現職)。現在は支援施設のリヴァトレ高田馬場、センター長として、職場復帰支援(リワーク支援)に携わる。



10月11日(金)

●乃樹愛(ノキア)

1994年生まれ。普段はレポートマンガや広告マンガなどを制作。趣味で絵を描き始め、同人誌イベントにも出展。卒業後、入社した教育関係の会社で適応障害を発症。休職の末、退職。闘病生活を乗り越え、その時のことをマンガにし、SNSにて『適応障害になった話』を掲載。現在は広告マンガを描いたり、マンガプロガーとしても活動している。



●鈴木由香(スズキ ユカ)

医療法人社団上桜会ゆうメンタルクリニック池袋院に勤務。上場企業に長年勤務し、管理職として社員・スタッフのメンタル面などをサポート。現在はメンタルクリニックのほか、学生、ブランクのある女性などを支援対象にカウンセリングをおこなう。産業カウンセラー、キャリアコンサルタント、2級キャリアコンサルティング技能士、NLPプラクティショナー、第一種衛生管理者の資格を持っている。



8月23日(金)

●Tokin(トキン)

1983年生まれ。学生時代から心身の不調を抱えつつ七転八倒。精神科への通院開始から10年ほどで解離性同一性障害・双極性障害と診断される。長期入院をきっかけに、自身の精神障害を描いたフリーペーパー「ゾンビ道場」を発行。2018年に刊行した『実録 解離性障害のちぐはぐな日々』は、マスメディアでも取り上げられ、当事者からは共感の声、医療関係者からは「初めて当事者の感覚が理解できた」と好評を得る。現在は主に「心理とおとぎ話」をテーマに漫画や水彩画を制作。



●山田ルイ53世

地元の名門・六甲学院中学に進学するも、引きこもりになる。大検合格を経て愛媛大学法文学部に入學も、その後中退し上京、芸人の道へ。著書に「一発屋芸人列伝」(新潮社)、『ヒキコモリ漂流記完全版』(角川文庫)、「中年男ルネッサンス」(イースト新書)、『一発屋芸人の不本意な日常』(朝日新聞出版)。



11月8日(金)

●モリナガアメ

幼稚園入園を機に「話せない子」になる。その後克服するべく奮闘するが、家庭の問題や運の無さもあり、なかなか上手くいかず、つまずきまくりの人生を送る事に。20代後半になり、改めて自分や家族と向き合おうと色々調べていた所、偶然昔の自分が「場面緘黙」だった事を知り衝撃を受ける。場面緘黙を広めるため、WEBでコミックエッセイ「かんもく少女が同人BL漫画を描いて人生救われる話」を公開した所話題となり、書籍版として「かんもくって何なの?」を出版。続編の「話せない私を考える」もWEBで公開中。



●高木潤野(タカギ ジュンヤ)

長野大学社会福祉学部准教授。東京学芸大学大学院連合学校教育研究科学校教育学専攻博士課程修了。東京都立あきる野学園養護学校自立活動専任教諭(言語指導担当)、八王子市立第四小学校きこえとことばの教室などを経て現職。著書に『学校における場面緘黙への対応——合理的配慮から支援計画作成まで』(学苑社)、『イラストでわかる場面緘黙サポートガイド』(合同出版)がある。



12月13日(金)

●ともよ

日々折り合いを付けながらその日を生きる人。1990年、東京生まれ。2004年、14歳の時に極度の不安や緊張を感じ始め、15歳で統合失調症と診断。精神病院への入退院を繰り返す。2011年より、web上に自身の統合失調症の日常で感じたこと「水色ともちゃん」のマンガを描き始める。絵、文字、写真などのツールで自分の世界を表現する。webや個展などで発信。



●松本ハウス

1991年から松本キック、ハウス加賀谷によるお笑いコンビ「松本ハウス」として活動。「進め!電波少年インターナショナル」「タモリのボキャブラ天国」などのバラエティー番組でレギュラー出演し、一躍人気者になるも、ハウス加賀谷が幻覚・幻聴などの統合失調症を悪化、1999年に活動休止。その後、入院生活を経て病状を改善させた加賀谷は、芸人復帰を決意。2009年に漫才コンビ「JINRUI」として復活。2011年、コンビ名を再び「松本ハウス」に戻し活躍中。

